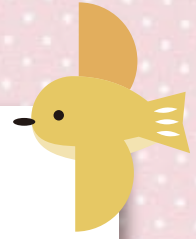




養護と教育が一体となった保育とは
～私たちは、子どもの命を育み、学ぶ意欲を育てます～



社会福祉法人全国社会福祉協議会 全国保育士会

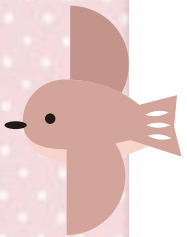


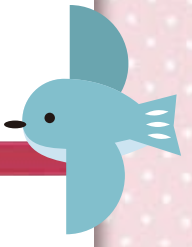
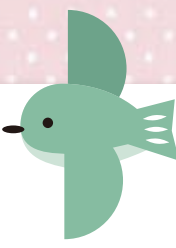
保育は、「養護」と「教育」が 一体となって営まれるもの

保育における「**養護**」とは、子どもが心身ともに心地よいと感じる環境を整え、子ども自身が主体的に育つことをたすける営みです。「**教育**」は、知識を伝える・教えるだけでなく、「感じる・探る・気づく」といった子どもの興味・関心を引き出すことであるといえます。

子どもは、周囲に働きかけ、さまざまな経験を通して学習する自発的な存在です。

“**養護と教育が一体となって営まれる**”ということは、子どもが落ち着いて、安心・安全に過ごせる場所や環境づくりに配慮しながらも（養護的側面）、子どもの主体的な経験を通して、感情の動き、人との関係、道具の使い方、達成感、自我（自分らしさ）の育ち、態度の育ち、言葉の覚え、運動能力の獲得などを育むこと（教育的側面）を支える表裏一体のかかわりなのです。





保育者の専門性

“養護と教育が一体となって営まれる” 保育を実践する私たち保育者は、子どものなにげない行動一つ一つに、**それぞれの子どもの個別の育ちや発達を意識し、明確な保育の目標をもってかかわっています。**

子どもの気持ちに寄り添い、**行動や表情に表面化されていない「気持ち」や「心の動き」を読み取ることで、**よりよい育ちや学びにつなげるようはたらきかけていくことは、私たちが大切にしている保育の基本です。

私たちは、子ども一人ひとりの育ちの状況に応じて保育の計画を作成し、計画的に保育を実践しています。その中では、自身の保育を振り返り、さらによりよい保育実践につなげるといった一連の流れをもって専門性の根拠を重ねられるよう、日々、子どもたちとかかわっています。



「おはよう！」



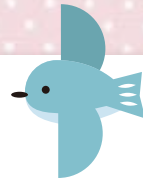
～できたという経験が自信につながる～

～受け入れられることで、人とのかかわりに安心感を覚える～

靴下、自分でしまえるよ



朝、2歳4カ月のAちゃんが、母親と一緒に登園し、保育者とあいさつを交わしました。保育者に受け入れられて、靴と靴下を脱ぎ、靴下を靴の中にしまっています。



保育者のかかわりとその意図とは…？

- 子どもや母親がかがんでいるのに合わせて保育者もかがみ、笑顔を交わしながら、子どもの後ろからそっと支えつつ、子どもが靴や靴下を脱ぐ援助をしています。子どもが自分のリズムで行動できるよう、子どものペースに合わせ、ゆっくりと接しています。
- 後ろから支えるとともに、子どもの体を触り、体の様子を観察しています。体温チェックが自然な形でできるので、身体の異常にも気づけます。

子どもの成長、育ちにつながる部分とは…？

- 発達に合わせた援助や、ちょっとした見守り方の工夫をすることで、「○○ができる、できた」という経験を重ね、自信につながっていきます。
- 保護者と保育者の快いあいさつの繰り返しや、行動の見守りにより、人とのかかわりに安心感を覚えます。
- 快く一日の始まりを受け入れてもらえることに喜びを感じ、肯定的に一日をスタートできます。

この年齢の発達特徴を支える保育者の専門性

- 2歳は「自分のもの」がわかるようになる時期です。保護者や保育者のあたたかいまなざしあつての場面です。
- 2歳は自分の身体である「あし」や「くつした」「くつ」に興味が出てきます。一見「靴をぬいで片付ける」という「養護」的場面といえます。しかし、子どもが「自分の靴」を“認知”、“そろえる”、“靴下と靴の役割”などを確認している大切な「教育」的場面ともいえます。
- 靴下を入れる行為は、手先の操作性が育っていないとうまくいきません。子どもが夢中になって、自分で「靴下をいれる」この場面は、「養護と教育の一体性」を感じさせます。



「砂遊び」



～砂が形になることへの楽しさが、達成感や好奇心を育てる～

みてみて！
できたよ～



3歳2ヵ月のAちゃんが、砂場で砂遊びをしています。

保育者がコップに砂を入れてグッと押さえ、保育者の手のひらの上にそのコップを逆さにしてできた物をプリンに見立ててみせました。するとAちゃんも自分の手のひらの上に、砂を入れたコップを逆さにして型をつくり、すぐに壊しては次をつくる遊びを何度も何度も繰り返している様子です。



保育者のかかわりとその意図とは…？

- 砂場では砂が舞って目に入らないように安全に配慮することと、型はめがしやすい環境を整えるために水をまいています。
- 保育者は「先生プリンできたよ」と一度手のひらの上に型はめをして見せたり、いろいろな型を楽しんでほしいと思い、数種類の型を準備していました。
- しかしAちゃんは、つくってはすぐに壊し、もう一度つくることを繰り返していました。この様子から、「プリン」をつくっているのではなく、手のひらの上で型ができることの喜びを楽しんでいたと考えました。保育者は、「きれいにできたね」「少しこわれたね」などと声をかけ、何度もつくって見せに来る状況から、手のひらで型ができる喜びを満喫している様子を見守りました。

子どもの成長、育ちにつながる部分とは…？

- 保育者が自らやって見せることで子どもに働きかけ、その働きかけに触発されて「やってみよう」という気持ちが生まれ、砂が形になること、元の形に戻ることを繰り返し確かめています（自らの思いの確認や挑戦する気持ち、好奇心 = 心情・意欲・態度が一体となった経験）。
- 自分でやりたいと思ったことが達成できたことにより、思うように身体を動かす喜びを感じています。今持ち合わせている力を使って十分に自分自身を生活しているのです。
- つくるたびに成功しないこともあるので、何度もつくろうとする意欲と、持続する力（集中力）が育っています。また、繰り返すつくることによって物の性質に気づき、不思議に思うことや試行錯誤して新たなことをしようとする意欲と、考える力が育っています。

この年齢の発達特徴を支える保育者の専門性

- 3歳2ヵ月の子どもにとって、「みてみて」には、応答してくれる大人、保育者の役割が求められます。そばにいて「みてみて」と言ったときに、応答する大人という環境が、子どもの満足や、「やった」という気持ちを育てていきます。“自己肯定感”と言われますが、実はこのような保育場面の積み重ねがあってです。
- 「プリンに見立ててみせました。するとAちゃんも自分の手のひらの上に、砂を入れたコップを逆さにして型をつくり、・・・。」とあるように、保育者がモデルとして「型ぬき」遊びをしています。この模倣をして成功体験につながる姿です。
- 時に大人は、やらせではなく、モデルとなることも大切な学び環境といえます。



本パンフレットで取り上げた2つの事例は、全国保育士会にてとりまとめた報告書「養護と教育が一体となった保育の言語化～保育に対する理解の促進と、さらなる保育の質向上に向けて～」から抜粋しています。
報告書にはこの2事例を含む、30の事例が掲載されていますので、ぜひご覧ください。

**報告書冊子「養護と教育が一体となった保育の言語化
～保育に対する理解の促進と、さらなる保育の質向上に向けて～」**

体裁：A4判、93ページ / 価格：400円（税込、送料別）

※購入申込み用紙は本会ホームページに掲載しています。

※報告書冊子の全文（PDF）は、本会ホームページより無料でダウンロードいただけます。

【全国保育士会倫理綱領】

保育の専門職集団として、社会に果たすべき役割や指標を示すものとして、平成15年3月に策定いたしました。

すべての子どもは、豊かな愛情のなかで心身ともに健やかに育てられ、自ら伸びていく無限の可能性を持っています。

私たちは、子どもが現在(いま)を幸せに生活し、未来(あす)を生きる力を育てる保育の仕事に誇りと責任をもって、自らの人間性と専門性の向上に努め、一人ひとりの子どもを心から尊重し、次のことを行います。

私たちは、子どもの育ちを支えます。

私たちは、保護者の子育てを支えます。

私たちは、子どもと子育てにやさしい社会をつくれます。

発行：社会福祉法人全国社会福祉協議会 全国保育士会
〒100-8980 東京都千代田区霞が関3-3-2新霞が関ビル
社会福祉法人全国社会福祉協議会 児童福祉部内
TEL. 03-3581-6503 / FAX. 03-3581-6509
E-mail hoikushikai@shakyo.or.jp
ホームページ <http://www.z-hoikushikai.com>



全国保育士会ホームページへ
リンクします。